



イノベーション×地方創生

Newsletter

2022年12月1日

編集発行人：Japa 日本専門家活動協会 代表理事 芝原靖典

発行元：Japa 日本専門家活動協会 <https://www.japa.fellowlink.jp/>

INDEX

1. コラム「論点提起」：高齢者の足回りの確保や如何
2. キュレーション：イノベーション×地方創生
3. 寄稿：いっしょに「探見」の発見と活動を (江戸探見家、元朝日新聞記者 森治郎)
4. 解説：数字で見るサッカーワールドカップ
5. 読者の声
6. Blog 仕組みの群像：まち歩き TOKOROZAWA STREET PLACE 2022
7. 「Japa 新型コロナウイルス感染症特設コーナー」の今月のpickup 情報
8. 連携団体及び Japa からのご案内
9. つばやき (編集後記に代えて)

注：担当執筆者名の記載のない項目は、編集発行人 (芝原 靖典) による。

※ 本 Newsletter は、Japa 日本専門家活動協会が毎月 1 日に発行する会員及び関係者向けの Newsletter です。3 ヶ月後に当協会の HP <https://www.japa.fellowlink.jp/blank-14> にて公開しています。

第 14 回 Japa フォーラム開催案内！

- 開催日時：2022年12月14日(水) 15:00~17:00 <14:55 アクセス受付開始>
- 論点提起：メタバース (特に VRSNS) の実情とリアルとの関わり
林田 雅裕 元NTT データエンジニアリングシステムズ取締役上席執行役員 現在、嘱託
- 開催方式：無料 オンライン開催 (Zoom) ※Japa の HP <https://www.japa.fellowlink.jp/> の「開催案内」を確認の上、参加申込 (事前登録) をお願いいたします。

Japa 会員・連携団体 募集中！

Japa は、より多くの方々が会員として習合 (ならいあい) ・連携・共創できることをめざして
正会員 (入会金 1 万円、年会費 1 万円)、一般会員 (年会費 3 千円) 及び 連携団体
を募集中です。お問い合わせ・入会をお待ちしています。

入会・連携に関するお問い合わせ・申込み先：Japa 事務局 info@japa.fellowlink.co.jp

1. コラム「論点提起」：高齢者の足回りの確保や如何

高齢者による痛ましい自動車運転事故が相次いで報道されている。「ハインリッヒの法則」によれば、報道されるような痛ましい事故（重大事故）の背後には、「ヒヤリハット」的な事象（インシデント）が300倍ほど発生していることが想定される。超高齢社会が今後も持続することを考えると、個別の事故責任云々ではなく、社会的構造問題・課題として対処する必要がある。

参考：97歳が運転 福島5人死傷暴走事故 免許更新はおとし夏ごろ 2022年11月21日 18時33分
NHK <https://www3.nhk.or.jp/news/html/20221121/k10013898811000.html>

自動車運転の際の動体視力（動いている物を連続して追いつけて識別する能力）や視野範囲の狭窄化等の視認力低下は過齢とともに確実に低下する。自らは健常と以为ていても、検査してみると静止視力が1.0で、動体視力は0.1と、統計値通りの数値と分かり愕然とする。そして、夜間は、対向車のヘッドランプが眩しくなり、前方視認がしにくい。特に最近のLEDランプは光が強すぎ、かつ車体が大型化し、ヘッドランプの位置が高く、眩しさが増す。雨の日、夜間、そして照明を落としたトンネル内は車道の白線が視認しにくい。これに加えて、個人差は大きいと思われるが、認知機能、反応速度を考えると、やはり、平均的には75歳～80歳あたりが免許返納時期（免許返納しなくても、自主的に運転を止める時期）となるのではなかろうか。

こうした基本認識の上で、免許返納時期に至る前的高齢者は、現在の人口構造の太宗であり、高齢者対応仕様の自動車や道路構造のあり方が本格的に議論されて良い。現状は健常者ベースの交通計画、道路構造設計になっているが、本線車道の逆走、歩道への突っ込み・走行等は道路構造的に対処するべきであり、十分可能である。わかりにくい信号機表示や交通標識も再考すべきである。最近話題の自動運転車も考えられるが、本格普及までにはまだ時間を要する。

そして、免許返納者という新たな移動困難者が大量発生する超高齢・長寿社会が続く今後において、外出困難者（買い物難民、通院難民、コミュニティ場への往来困難等）の増加は、移動できないが故の心身の健康の悪化、社会的孤立・孤独者を増加させることが予想される。こうした外出困難者は、自宅から外に出る最初の一步（フィーストワンマイル）として利用できるオンデマンド型移動サービスが不可欠であり、従来の大量輸送型の路線バス等では対応が難しい。

現在においても、ライドシェア、乗合タクシー、自家用有償旅客運送等々、いろいろな試みが一部地域でなされているが、そうした「個」をベースとしたオンデマンド型移動サービス、すなわち「地域MaaS」の普及に期待したい。それも、公的補助に依存するのではなく、移動サービスの目的地（店舗、病院、鉄道・バス会社等）も巻き込んだ地域MaaSビジネスとして成立する仕組み化が望まれる。こうした地域内を自由に移動できる移動サービスがあれば、地域内の空き家の活用も活性化する。地域への来訪者もそうした移動サービスがあれば訪問しやすい。

従来の鉄道・バス交通空白対応的な行政支援型の地域公共交通体系を、新たな移動困難者（免許返納者）の本格化を契機に、全域での「個」対応の足回りの確保（地域MaaS）をベースに切り替えることが、地域住民、関係人口拡大等、地域活性化に不可欠であると思われるが如何。

2. キュレーション：イノベーション×地方創生

[GAFAの揺らぎ]

- ▼GAFAもまた7つの要因で凋落へ。最初の犠牲者は「Meta」か？ 社会環境の変化で最強企業が衰退していく 2022年11月5日 MONEY VOICE <https://www.mag2.com/p/money/1249189>
- ▼いよいよGAFAが総崩れ、メタはメタメタ、アマゾンよお前もか！ 米国を支えてきたITの落日 大原 浩 2022.11.14 現代ビジネス <https://tinyurl.com/2j7dyval>

[メタバースの動き]

- ▼メタバースとは ~先行企業の動向~ NTTデータ経営研究所 <https://tinyurl.com/2lydlgux>
- ▼プラットフォーム化が進むメタバースに関する技術的考察 国立情報学研究所教授 佐藤一郎 公正取引委員会競争政策研究センター (CPRC) セミナー (2022年11月11日) https://www.jftc.go.jp/cprc/events/cprcseminars/index_files/120th-cprcseminar.pdf
- ▼コミュニティを活性化させるメタバース ~実証実験から導いた価値と活用のための三原則~ 2022年11月9日 Abeam Consulting <https://tinyurl.com/2ffo5c8n>
- ▼ソニーがマンCとの協業発表で「メタバース」という言葉を避けた理由 2022/11/15 08:50 Forbes JAPAN <https://forbesjapan.com/articles/detail/49406/1/1/1>

[知とイノベーション]

- ▼起業家が育つ「スタンフォード大学」 日本の授業とは何が違うのか 2022/11/11 16:30 Forbes JAPAN <https://forbesjapan.com/articles/detail/51899/1/1/1>
- ▼OSINT (オシント) を支えるのはネットの集合知だ 限界を自覚しつつも可能性に期待 2022.11.12 GLOVE+ The Asahi Shinbun <https://tinyurl.com/2hy47v73>

[社会の揺らぎ]

- ▼経産省が手を出した業界から崩壊していく…日本企業が世界市場で勝てなかった根本原因だから世界一だった液晶と半導体も崩壊した 野口 悠紀雄 2022/11/16 11:00 PRESIDENT Online <https://president.jp/articles/-/63430>
- ▼木村岳史の極言暴論！ ゆでガエルが「失った30年」、日本のDXが成功しないと断言できるこれだけの理由 2022.11.17 日経ビジネス <https://tinyurl.com/2gopva9p>
- ▼日本、ついにアジアで最も「豊かな国」の座を台湾に譲り渡す 1人あたりGDP比較、やがて韓国にも 野口 悠紀雄 一橋大学名誉教 2022.11.06 現代ビジネス <https://gendai.media/articles/-/101739>

[地方創生へのつながり]

- ▼デジタル社会を切り拓く「地域共創ポータル」 2022.11.1 三菱総合研究所 <https://www.mri.co.jp/knowledge/mreview/2022113.html>
- ▼越境 EC が地方創生活活性化のビジネス機会になる3つの理由 2022年11月17日 大和総研 https://www.dir.co.jp/report/consulting/other/20221117_023405.pdf

3. 寄稿：いっしょに「探見」の発見と活動を（江戸探見家、元朝日新聞記者 森治郎）

朝日新聞社を定年退社後の20年のうち15年ほどを「江戸探見家」の名刺を持って世間を渡っている。

「探見」とはどんなことを意味するのか。私が編集発行人を努めている月刊メールマガジン『探見』の題字の横に「ゆっくり歩いて、見て、聞いて、（許されれば）触れて、読んで、知る。そしてそのことを楽しむ」ことである、と記してある。その「定義」に行き着くまでに7、8年の時間がかかった。

こののはじまりは、2006年秋に朝日新聞都心部読者を対象にしたコミュニティ紙に「大江戸探見」という連載を書いたことにある。

朝日新聞社を定年退職後担当していた早稲田大学での授業も終わりかけたころ、それまで趣味として読んだり歩いたりしていた「江戸」を少し深掘りしてみようということで朝日新聞社での後輩だったそのコミュニティ紙の編集長に「書かせてほしい」と言ったのか、「書いてほしい」と頼まれたのか、とにかく始まった。タイトルはその連載にあたってひねり出したもの。ついでに数カ月後には「早稲田大学客員教授」という肩書がなくなる（し、それでは硬すぎる）ので、「江戸探見家」を名乗ることにした。

「探見」は、私オリジナルのものではない。いくつかの書名に使われていた。何よりも朝日の先輩が『東京探見』という本を出していた。その先輩の“許し”を得ての名乗りだった。ウィキペディアで検索したところ、「探見家」はほかにいなかった。

「探見」が少し進化したのは、連載が縁になって朝日カルチャーセンターから同趣旨の野外講座を頼まれたことからだった。街歩き講座であることがすぐわかるように「大江戸まち探見」とした。2010年7月のことだった。そのときの受講者募集のチラシにこう書いた。「江戸はもちろん明治大正も、そして昭和の風景さえ遠くなったといわれます。しかし、都心には江戸の町で育まれた文化、築かれた建物、道路、庭などが時の流れと災害、破壊の大波に耐え、い

	<p>2022年11月号 (通算140号) 第1部</p>	<p>探見とは「ゆっくり歩いて、見て、聞いて、触れて、読んで、知る。そしてそのことを楽しむこと」である。 共同創刊者 酒井憲一、森治郎</p>
<p>島田叡・斎藤隆夫・田中静彦・碧川かた 横家さんが4冊で描いた 「この人たちを見よ」</p>		
	<p>本誌の今年4月号に『男ひとり』『命日常の世界』を求めて Let's enjoy LCR (格安旅道切符) trip を書いてくださった横家伸一さん(72歳)が、先月『赤とんぼの母』を出版されました。堂証「赤とんぼ」作詞の三木露風の母で、看護婦の草分け・参政権をはじめとした「婦人の権利」獲得のために奮闘した碧川かたの生涯を描いたものです。</p> <p>横家さんは兵庫県教育委員会の職員を退職後、2013年に『男ひとり...』を出された後、15年に『静香の巻物 最後の沖繩県知事・島田叡』、19年に『秋霧に生きる 源高の政治家・斎藤隆夫』、21年に『八月十五日 終戦秘話・宮城事件 東郷軍司令官田中静彦伝』（いずれも文芸社刊）と、次々に上梓されています。</p> <p>取り上げた人物は、いずれも横家さんのふるさとであり現在もお住まいの兵庫県にゆかりがあります。それ以外に共通点がありません。それは、誕生「命」を大切に、それを守るための努力とそれによって生じた「圧力」に屈しなかったことです。その彼らがどんな人であり、どんな人生を歩んだのか、そしてなぜ「彼ら」を取り上げたのか、横家さんに再度尋ねいただきました。</p>	
<p>私はこれまで我が国の近代史、なかでも明治維新から太平洋戦争までに注目してきた。その間</p>		

たるところで生き続けています。ゆっくり歩いて、じっくり見て、ちょっぴり想像力を働かせれば懐かしい風景が浮かんできます」 ここで「探見」の意味が少し深くなった。

そして半年後、その講座のことを知った 15 歳上の先輩から「メールマガジンを作って、探見コンセプトを広げようよ」と声がかかった。その先輩は定年退社後、アメニティ(快適生活環境)・江戸文化研究者として何冊もの本を出しており、私など足元にも及ばない探見家だった。

2011 年 4 月、『探見』を創刊した。それにあたって 2 人で考えたのが、題字横の「探見」の定義である。これで「探って見る」だけのものにかかなりの明確な内容と手法を加えることができたように思う。ただし、最初は「ひたすら歩いて」だったが、5 年ほどして「ゆっくり」に変えた。「無理しないことがなにより大事」。2 人の加齢によるものと思いたくないが、とにかくそこへ行き着いた。



「間近で見る、聞く、感じる」ことが「探見」のモットー。
川越まつりの「曳っかわせ」を蔵造りの町並みに面した商家の 2 階から



現場へ行くと現状がよくわかる。
タワーの下の徳川將軍霊廟(芝・増上寺で)

それがよかったのか、ツアーの参加者は盛況で、その報酬がメールマガジン発行の費用を支えてくれた(「自由な誌面づくりとより多く読んでいただく」ため、原稿料などの費用はすべて自腹としていた)。ところが 2 年半前に先輩は 91 歳の 4 日前に熱中症から肺炎を併発し亡くなった。そして今年 9 月、朝日カルチャーセンターの野外講座のうち定期的なものは、コロナ禍などの影響ですべて休止になった。「大江戸まち探見」も 120 回、延べ 2000 人の参加で終了した。私は「探見」活動の二人三脚の相手とたくさんの同行者を失ってしまったわけである。

しかし、まだたくさんの仲間がいる。メールマガジン『探見』発行に協力していただいている幹事と読者である。幹事は 10 人。読者はまもなく 1000 人。ぜひ、このメール読者の皆さんにも作り手あるいは読者の列に加わっていただきたい。きっとさまざまな活動への「ヒント」と「エネルギー」を得ていただけたらと思うからである。そして「探見」に新しい意味と活動を加えて、元気をなくしているこの国の再生に役立てたいものと考えている。

4. 解説：数字で見るサッカーワールドカップ

日本代表チームがドイツ代表チームを破るジャイアントキリングで盛り上がっている FIFA ワールドカップを数字で見る（各種資料による）と以下の通りである。

サッカーワールドカップは、オリンピックに次ぐ世界四大スポーツイベントの一つである。

1. オリンピック：第1回アテネ大会（1896）⇒ 2020 東京 [第32回]
 - ・ 2008 オリンピック北京大会の視聴者数：約 47 億人、約 300 種目
 - ・ 経済波及効果：約 3 兆円、雇用誘発数：約 15 万人（招致委員会）
2. FIFA ワールドカップ：第1回ウルグアイ（1930年）⇒ 2022 カタール [第22回]
 - ・ 予選参加チーム数：209 の加盟国・地域の代表チーム（単一競技では世界最多）
 - ・ 最多観客総数は 1994 年米国大会で、全 52 試合で 359 万人
 - ・ 2006 ドイツ大会の視聴者数：世界 214 カ国・地域で延べ 263 億人
3. ツール・ド・フランス：第1回（1903年）⇒ 2019 ベルギー [第106回]
 - ・ 毎年 フランス及び周辺国で開催
 - ・ 観客動員数 1000 万人超。190 カ国で TV 中継、視聴者 35 億人
4. ラグビーワールドカップ 第1回オーストラリア・ニューゼaland（1987年）⇒ 2019 日本 [第9回]
 - ・ 2019 年（平成 31 年）9 月～10 月（約 7 週間）、20 チーム
 - ・ 大会の経済効果は全国で 1,680～2,780 億円【RWC2019 組織委員会】

FIFA ワールドカップの出場 32 カ国には準備金として一律 150 万ドル（約 2 億 1000 万円）が支払われる。カタール大会の賞金総額は史上最多の 4 億 4000 万ドル（約 616 億円：1 ドル＝140 円換算）で、その内訳は以下の通り。

- 優勝国：4200 万ドル（約 58 億 8000 万円） 準優勝国：3000 万ドル（42 億円）
※3000 万ドルはエンゼルス大谷翔平投手の来季年俸と同額
- 3 位：2700 万ドル（37 億 8000 万円） 4 位：2500 万ドル（35 億円）
- 8 強：1700 万ドル（23 億 8000 万円） 16 強：1300 万ドル（18 億 2000 万円）
- 1 次リーグ敗退：900 万ドル（約 12 億 6000 万円）

この賞金は FIFA から各国のサッカー連盟、サッカー協会に支払われる。これらを原資として、代表選手に支払われる金額はカタール大会でベスト 8 まで進んだとして、約 1,500 万円となる。（残念ながら、AI 予測によると日本代表がグループリーグを突破できる確率は 26.1%）

- 日当約 30 万円：代表チームでの活動（合宿、大会等）に従事する選手への日当は「1 日 1 万円」で、ベスト 8 まで進んだとして約 30 万円。
- 勝利ボーナス：200 万円（選手全員に一律支給）、引き分けの場合は半額の 100 万円
- 大会ボーナス：800 万円（選手全員に一律支給）

大会を支える総収入は前回大会（2018）の実績値をみると、総収入 5,875 億円（当時のレートでの円換算）で、テレビの放映権料 3,281 億円、スポンサー料 1,833 億円、入場料 597 億円、その他 163 億円となっている。近年、スポンサーにおける中国企業の存在感が増している。

5. 読者の声

【読者の声1】 エクソサイズ （建築家 近澤可也）

「今この瞬間」の意識は老いることがない。このエクソサイズによって老化が防げる。人間は、『老』・『病』・『死』から逃れることは出来ないという古い諦念を捨て、もっと自由に、楽天的に、創造的に生きる。自分を縛りつけていた古いしがらみ・鎖をとき放ち、<個>として独立し、もっともっと自由に生きる。

自分とは何か？ 自分は何をやりたいのか？ 自分は何をもって、何ができるのか。やりたいことをやる。やりがいのあることをやる。これまで培った経験・技術・叡智で、人々や社会に貢献する……これが私たちのテーマ・目標・生きがいです。

<ディーパック・チョプラ 「エイジレス革命」>

心は変化や喪失、死を恐れる。

あなたの意識を受容的にし、あるがままの生にできるだけ満足する方法を学ぶ。

人は恐れや不安を感じると、周囲をコントロールしたがる。あるがままの現実を受け入れれば、何もコントロールする必要はないのだが。

エクソサイズ1： 自分の思い込みをすてる。

あなたの人生がどれだけ自由かは、認識の仕方がどれだけ自由か、ということで決まる。

1. まず、自分は一つの解釈に縛られている、ということを知覚する。
2. これまでの固定観念をひとまず忘れる。
3. 新しい目で物事を見る。自分の体の感覚に意識を集中すること。
4. 自分の古い解釈が今の状況にあてはまるかどうか疑ってみる。
5. 結果でなく過程を大切にす。目的地など知らなくても、人生の道中は楽しむことができる。

この5つのステップを実行すれば、不要なストレスのもととなる日常的な不平不満などすぐに解消される。また、自分自身に寛大であることも大切だ。無理に抵抗しないほうがいい。

エクソサイズ 2： 過去という層を一枚ずつはがす

過去は、私たちの中でいくつもの複雑な層をなしている。

「こうだったらよかったのに」という願望。「こうなるはずだったのに」という思い。強い願望や悲しみ。自責の念や罪の意識にとらわれて、実際の記憶を塗り替えてしまう。

自分の内部の奥深くにある『すべてを受け入れる場所』に気づく必要がある。

ヘルマン・ヘッセ 「シッダールタ」

「あなたのなかには静けさがあり、いつでも避難し自分自身に戻ることでできる聖なる場所がある」

聖なる場所とは、心地よさの自覚であり、それはいかなる混乱によっても侵されない。
人は瞑想をつうじて、この聖なる場所を発見する。

『私は今のままで完全である。私の人生で起こるすべてのことが、私にとって究極の善へと向かっている。私は愛されているし、愛そのものである』
この言葉を分析しようとはせずに、ただ書き写す。書き終えたら目を閉じ、感じたままを思い浮かべよう。まず最初に浮かんだ言葉を書きとめる。
書き写しては自分の反応を書きとめるというエクササイズを 12 回ほど繰り返す。
あなたの意識の最も深いレベルの言葉を聞くことができる。

エクササイズ 3： 現在に生きる。
あなたが考え感じるすべてのものが、あなたそのものである。
人は、何かを感じている「今」から出発して真の自己を探していくしかない。
感情は、あなたの中に「今この瞬間」にあらわれる。
思考はたいてい過去か未来についてだが、感覚は現在のものだ。
「現在」という名の瞬間に生きなければならない。

< はるか異郷へさまよいでたわが魂を、私のもとへ呼び戻そう、
今ここに生き、旅するために！> …… リグ・ヴェーダ

【読者の声2】 鉄道開業 150 年に想う 第1話 東京駅 （作詞・作曲家 高橋育郎）

私は昭和 28 年 6 月に東京駅に入り、社会人のスタートを切りました。
当時、日本はまだ戦後の不況から、完全には立ち直れていませんでした。
国鉄（公共企業体）は、この年初めて一般公募で採用試験を行い、希望者が殺到し、就職試験は高校の校舎を借りて行いました。私は東京鉄道管理局で受験しました。そして駅手として採用されました。

当時の東京駅レンガ造りの駅舎は空襲の焼け跡で、黒焦げや傷が目立ち、内部もベニヤ板の仮設。駅長室だけが元の姿で残りました。3 階は焼夷弾で焼け落ち、2 階建てに仮の屋根をつけて仮オープンしていました。

丸の内側に目をやれば、丸ビルと運輸省ビル（後の国鉄本社）、そして日本工業倶楽部ビル、中央郵便局くらいで、まだ新丸ビルは外堀でした。

一方、八重洲は木造二階建ての小さな仮駅舎で、改札口にいたる通路は板敷でした。

駅前には、見渡す限りの焼け野原で、掘ってゴヤがいくつか点々とみえ、一杯飲み屋の仮店舗が目立ちました。ビルといえば日本橋三越と目の前に高島屋が焼け残って建っていました。

駅の地下は荷扱い場で、ターレット通路がはしっていて、電灯も少なく薄暗い状態でした。

そういえば、昭和 30 年代に入って、赤レンガ駅舎を取り壊し、ビルに建て替えようという話が持ち上がりましたが、保存しようという声が高まり、今の姿が残りました。 <続く>

6. Blog 仕組みの群像：まち歩き TOKOROZAWA STREET PLACE 2022

「プレイス（点）がつながり、ストリート（軸）になる！！」という標語を掲げた所沢市のまち中の4つのプレイスを訪ねながら、「プレイス（点）がつながり、**時代をつなげ**、ストリート（軸）になる、**そしてエリア（面）となる！！**」への一歩ではなかろうかと思いつつ、ブログにしたためアップした。

▼Blog 仕組みの群像：まち歩き TOKOROZAWA STREET PLACE 2022

<https://shikumi-gunzo.hatenablog.com/>

7. 「Japa 新型コロナウイルス感染症特設コーナー」の今月の pickup 情報

<https://japa-fellowlink.wixsite.com/website-2>

▼コロナ禍での子どものウェルビーイングとレジリエンス【前編】—レジリエンスとは何か 2022年11月4日掲載、【後編】—カギは”保護者の養育態度”と”園でのサポート” 2022年11月11日掲載 小川 淳子（CRN 研究員） チャイルド・リサーチ・ネット
<https://www.blog.crn.or.jp/lab/10/41.html>

▼新型コロナ 国産の飲み薬「ゾコーバ」が承認 効果は 2022年11月22日 23時24分 NHK
<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20221122/k10013899671000.html>

▼「司令塔」機能 有事にらむ 感染症会議提言 コロナの教訓、平時から産官学民で備え 日経・FT 感染症会議 2022年11月23日 2:00 日本経済新聞
<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOCD2108H0R21C22A1000000/>

8. Japa 及び連携団体からのご案内

▼Japa の会員募集

Japa は、会員 [正会員、一般会員]、連携団体を随時募集しています。

※ 正会員：入会金1万円、年会費1万円 一般会員：年会費3千円

お問い合わせ先：Japa 事務局 info@japa.fellowlink.co.jp

9. つぶやき（編集後記に代えて）

サッカーでも先進技術の導入が進んできた。他の競技でも導入がされている「VAR」（Video Assistant Referee）に加え、12台のカメラと人工知能を用いてオフサイドを自動で検出する「半自動オフサイドテクノロジー」が話題を読んでいる。スピードが上がった競技には、人間の視認力をサポートする技術の目が必要となるのは自然の流れかもしれない。もう「神の手」をみることはなくなるのかと思うと少し寂しい気もするが、・・・。

編集発行人：Japa 日本専門家活動協会 代表理事 芝原靖典

問合せ・連絡先：info@japa.fellowlink.co.jp

発行元：Japa 日本専門家活動協会 <https://www.japa.fellowlink.jp/>

Copyright © 2022 Japa 日本専門家活動協会